

■波多野鶴吉 転交の後、組合長に迎えられて蚕糸業界に入り、前田正名に触発されて、(郡是製糸(グンゼ))を設立した。

はたのつるぎ

五ヶ国条約・1858= 丹波国何鹿郡延村(京都府綾部市)で、大庄屋羽室嘉右衛門の次男に生まれる。母は富美。幼名鶴二郎。大名にも金を貸すほど豊かで、苗字帯刀上下着用を許された家で、恵まれて育つが、

桜田門外変・1860= 2歳:

生麦事件・・・1862= 4歳: この年まで40年間も藩主の座にあった、九鬼隆都(たかひろ)は、襲封直後から藩政改革に取り組んだ逸材で、幕末を代表する経世家の一人佐藤信淵を招いて、'米麦作の必要量以外は商品の農作物に転化して現金収入を図るべき'という農政を実施、そのため、綾部には地に着いた農産文化が根付いていたという。この年、羽室家を同じ年ごろの九鬼隆一が馬に乗って訪れて羨ましく思い、  
薩長同盟・・・1866= 8歳: 同郡馬場村の波多野家の主が死去したため、その家督を継ぐべく、養子となった。いやがるころを、馬に乗せられると聞いて途端に機嫌が悪くなったという。養家は、戦国時代丹波一だった武將を祖とする大地主であったが、維新とともに衰えており、ともに病弱な養祖母、養母と、2歳下の娘花という女性ばかりの家にじじめず、藤懸氏の家老石井半蔵らについて漢籍を学び、綾部藩校(廣許堂)に入ったりしたが

大政奉還・・・1867= 9歳:

明治維新・・・1868=10歳:

学問のすすめ1872=14歳: 3年前の養母に続いて、養祖母も死去すると、花を、後見役に来ていた羽室家の分家作兵衛夫婦に託して、

明治6年政変 1873=15歳:

初の民間工場1875=17歳: 家出して京都に出て、京都中学で数学を学び、大阪の旧長州藩士にも就き、

三つの反乱・1876=18歳:

大久保暗殺・1878=20歳: 子供たちが算数を学ぶ一助にしたいと「啓蒙方程式」を出版するが売れず、

琉球処分・・・1879=21歳:

{数理探究塾}を開業するが、すぐに閉鎖。続いて、貸本屋を開くも儲からず、塩田などの土地入手にまで手を出すなどし、この間、諸費用を賄うため、養家に戻っては資産を金に換えて、京都に出ることを繰り返して、財産を使い果たし、借金まで抱えた上、若気の至りもあって、一生の悔いにもなる鼻が欠けた姿で戻ったため、遊蕩していたのではないかと悪評にさらされる。また、自由民権運動にも影響を受け、  
明治14年政変1881=23歳: 民権家の集まり{京都交詢会}ができると、自分の下宿を会合場所に提供したが、運動はすぐに萎んでしまい、ついに、失意のまま帰郷、生家に戻ると、隠居した父に激怒され、家督を継いでいた兄のとりなしで許され、花に支えられて、一隅に住み、

新体詩抄・・・1882=24歳:

生家に入出入りしていた人の縁で、小学校教員となる。

この頃でも、羽室家の勢いは衰えず、長者番付でも、京都府で11位、綾部。福地山では一位の大富豪、

内閣発足・・・1885=27歳:

この年の、東京上野での全国五品共進会でも、綾部の繭と生糸が粗悪であるとの評価に、但馬の中農出身の、4年目になる京都府知事北垣国道が、蚕糸業の大同団結のため、福知山で集談会を開催されるのと同後して、  
綾部の蚕糸業の第一人者梅原和助に見いだされ

帝国大学始・1886=28歳:

国民之友始・1887=29歳:

\*何鹿郡蚕糸業組合が結成されると、梅原の推薦で、初代組合長に迎えられ、以後、再選を重ねて行く。  
前年に、来訪した青年高倉平兵衛、組合書記の新庄倉之助を先進地上州に派遣するなど人材育成を図るとともに、羽室家の力を借りて、  
10釜の器械製糸工場{羽室組}を創業し、やがて34釜へ拡張。  
この間、天蚕か家蚕かで論争して影響を受けた田野の田中敬造がまた、押川方義の演説を聞いてクリスチャンになっていて、天蚕の勉強で、敬造宅を訪れた際、置かれていた聖書を一読するや、一気に傾倒、  
前年の高倉平兵衛に続いて、新庄倉之助とともに、先端技術を身につけ、キリスト教信者になって帰郷、  
帝国憲法発布1889=31歳: 田野に巡回してきた留岡幸助を師と仰ぎ、丹陽教会でキリスト教の洗礼を受け、以後、マックス・ウェーバーの「プロテスタンティズムと資本主義」を体現するかのようになり、活躍して行く。  
帝国議会始・1890=32歳:

足尾鉍毒始・1891=33歳:

郡司千島探検1893=35歳:

京都府蚕糸業取締所頭取になると、  
高等養蚕伝習所を開設し、のち(郡是製糸)設立後に、技術面で支える片山金太郎、経営面で支える遠藤三郎兵衛という人材を得ることになる。

日清戦争始・1894=36歳:

日清戦争終・1895=37歳:

恩人梅原和助が死去、以後も、遺族の面倒を見る。  
前田正名が京都遊説に来た際、'実業上の郡是(郡の基本方針)を定めよ'と力説したのに触発されるとともに、京都府知事渡辺千秋が組織した蚕糸業視察団に参加して確信を得、  
何鹿郡綾部町(綾部市)に、大資本に対抗すべく、多くの小株主を募って、主168釜の{郡是製糸株式会社(現在のグンゼ)}を設立、社長を実兄で筆頭株主の羽室嘉右衛門に譲り、自らは取締役となる。

白馬会・・・1896=38歳:

公称資本金9万8千円、1株20円の株主には、器械と女工を提供して合流した小製糸家や、何鹿郡内の養蚕家が多く、  
良質繭を確保して優等糸を製造する同社の経営方針は、工女哀史も無く、株主の利害と一致し、  
片山金太郎が支配人になる。  
早くも高収益が出るようになって、三井物産との取引も始まるとともに、機業部を設けて、羽二重の製造を開始。

ビア/国産化・1900=42歳:

田中正造直訴1901=43歳:

パリの万国博覧会で、出品した生糸が金賞となり、  
網会社トップの、アメリカのスキンナー商会と特約を結ぶに至るも、金融恐慌で、素封家らのつくった銀行が相次いで倒れて、羽室家もついに倒産するが、政府の要請で、銀行整理に乗り出してきた安田善次郎が、  
{郡是製糸}という優良会社のあることを知り、波多野に会って一瞬のうちに信頼、百三十銀行が全面的に支えてくれることになって、自ら社長に就任して再建、同社の充実と拡大につとめて行く。

日比谷公園・1903=45歳:

日露戦争終・1905=47歳:

満鉄発足・・・1906=48歳:

アラクイ創刊・1908=50歳:

伊藤博文暗殺1909=51歳:

原蚕を飼育し、全国に販売する合名会社{大成館}を設立して、社長になる。  
二つの小製糸家を買収して、最初の分工場とし、  
群小工場を統一して一大飛躍することを宣言、  
片山金太郎が取締役になる。播州の製糸工場を買収するなど、府外にも進出。教育部をつくり、クリスチャンの優れた教育者川合信水を招くと、会社幹部から工女まで、その教育を行き渡らせる。その後も、京都府蚕糸業取締所の頭取、何鹿郡蚕糸業組合の組合長、高等養蚕伝習所の所長を兼ねていたが、

韓国併合・・・1910=52歳:

園部、和知に工場建設。京都線が開通して、交通の要所となった綾部は、日本の蚕糸業のセンターに飛躍。社長の職に専念するため、蚕糸業組合の実務は副組合長に任せて、以後、報酬を受け取らず。中筋村で「報徳主義と養蚕法」と題して講演したように、日本独自の報徳思想にも造詣深かった。

明治天皇没・1912=54歳:

大正政変・・・1913=55歳:

第一次大戦始1914=56歳:

民本主義・・・1916=58歳:

子供が無かったため、山内林一を養子にする。本工場が全焼するも、それまでの蓄えで立ち直るが、  
第一次世界大戦が勃発、糸価の大暴落で苦境に立ち、病床の安田善次郎を訪ねて、救済を保障して貰う。  
組合長再選を固辞して、顧問に退く。組合が、功に報いようと、寄付を募って銅像建立しようとしたのを断り、社会公共のためになるものにと提案して、集会所となる記念館を建設することになった。

ロシア革命・1917=59歳:

糸の横浜入荷量は全国第7位で、代表的な優等糸製糸家となり、貞明皇后行啓の榮譽に浴し、直後には、創立二十周年の式典を挙げて得意満面であったが、行啓の予行演習からのあまりの緊張のためか、  
郡立女子実業学校での講演の途中、脳溢血で倒れ、没した。

本格政党内閣1918=60歳:

遠藤三郎兵衛が3代目社長になり、片山金太郎は専務取締役についた。2年後、波多野記念館が竣工した。